

## 第1回 尼崎市生涯学習審議会 会議録要旨

日時	令和元年10月4日（金）午後6時から午後8時20分まで
場所	尼崎市中央北生涯学習プラザ 1階学習室
出席委員	渥美委員、江田委員、大槻委員、鎌田委員、田井委員、田中委員、中平委員、久委員、松岡委員、松村委員

### ■議事内容

#### 1 開会にあたって

- ア 定足数の確認
- イ 委嘱状の交付
- ウ 市長あいさつ
- エ 委員、事務局及び出席者紹介

#### 2 会長の選任等

##### ア 会長の選任

尼崎市生涯学習審議会条例第4条の第1項の規定に基づき、委員の互選により、渥美委員が会長に選任された。

##### イ 会長職務代理者の指名

尼崎市審議会条例第4条の第3項の規定に基づき、渥美会長が会長職務代理者に久委員を指名した。

#### 3 会議の公開について

##### ア 尼崎市生涯学習審議会公開取扱要綱

事務局より尼崎市生涯学習審議会公開取扱要綱（案）について説明。

修正、変更等がなかったため、尼崎市生涯学習審議会公開取扱要綱は事務局（案）のとおり定められた。

##### イ 会議録の公開

事務局より会議録の公開について説明。

会議録の公開にあたり、発言者の個人名を伏せ、「委員」として公表することで決定された。

##### ウ 傍聴者の確認

傍聴者なし

##### エ 会議録署名委員の指名について

五十音順に江田委員と大槻委員を指名した。

#### 4 尼崎市の取組について（説明）

### (1) 自治のまちづくり及び生涯学習プラザについて及び(2) 平成31年度尼崎市生涯、学習！推進指針について

事務局より自治のまちづくり及び生涯学習プラザについての説明と平成31年度尼崎市生涯、学習！推進指針についての説明をし、質疑応答が行われた。

#### ○委員

小学校区単位に担当職員を1人置くとなっているが、尼崎の場合地域の方々には社協単位で動いており、社協と小学校区の単位が少しずれているのが現状ではないかと思うが、現在社協と小学校区の整理はどのように行っているか。

#### ◆生涯、学習！推進課長

小学校区単位を基軸にし、地域学校協働本部といった地域の人が集まる場を利用しながら地域の人と連携していく軸としている。領域が異なる部分は現状としてあるが、連協毎に異なる部分は各地域課の中で連携しながら進めていくつもりである。ご指摘のような課題があるということは認識しているところではあるため、今後進めながら調整していくつもり。

#### ○委員

将来的に小学校区と社協の整理を上手く再編しながら地域と市の協働を進めていきたいという思いはあるのか。

#### ◆市長

微妙である。

#### ◆生涯、学習！推進課長

社協と小学校区を1つにすることは考えていない。連協及び小学校単位で活動するものそれぞれ効果的なものがあるので、ケース毎に状況に応じて対応する。

#### ◆市長

尼崎市は小学校が41、中学校が17、地域支援包括センターが12、連協が75という風にテーマによって地区割がバラバラである。取組む中で、他の自治体ではまちづくり協議会がつくられるというケースもあるが、尼崎市においては組織づくりから入るのをやめ、地域の人々がテーマ毎に柔軟に地域づくりに取組んでいるため、小学校校区単位に担当を配置したところではあるが、テーマごとに柔軟に対応できるようにしたところである。社協の加入率等地域ごとに特性があるため、一律主義では不可能であると考えている。

### (3) 令和元年度の審議内容及び審議会のスケジュールについて

事務局より令和元年度の審議内容及び審議会のスケジュールについて説明した。  
なお、質疑応答なし。

## 5 武庫地区の取組（審議）

### (1) 平成30年度の先行取組及び令和元年度の取組について

武庫地域課より平成30年度の先行取組及び令和元年度の取組について説明し、質疑応答

を行った。

#### ○委員

事業の評価について、資料9の様に講座の実施状況の数の報告があったり、時友団地のように一つの事柄が複合的に起こっている状況がある中ではあるが、何に優先順位をつけるか、どのような形を理想としていくか等、評価の軸があれば教えていただきたい。

#### ◆武庫地域振興センター所長

事務事業評価の指標には延べ人数指標で出ているが、人が集まる講座ばかりやっていたらいいのかという事もある。まちへの関心が高まったとか行動をしたいとか指標事項を変えて取り組んでいかなければならないとも考えている。

#### ○委員

数字には出ない目標に向かっているようにも話を聞く中で感じた。識字教育等、可視化されない課題解決があることを感じている。外国人を対象に講座を開設することによって、セーフティネットやコミュニティが作られたり、学校教育から落ちない、犯罪防止につながる等の効果が考えられるが、それらは数字に表れないものであり、効果がどこまで及んでいるのか等を考えるのが大事だと思い、それがアウトカムされる手段があればいいなと思った。

#### ◆武庫地域課長

犯罪につながらない等結果として数字に見えないものも大事だと考えている。今回数字に見えない部分が報告できたと思う。

～約5分各テーブル内で感想の共有～

#### ○委員

先行で取り組む中で、綺麗な形で進めているように感じた。つながる先が高齢の方など限られているように思い、社協とのつながりが低い中でお声掛けが難しいように感じた。

貴布禰神社のまつり組織は地域の清掃活動に参加したりしている。まつり組織は若い年代が多く活動も土日に行っているため、幅広い年代が地域に参加できる。神主が常駐している神社が無く、まつりも少ない武庫地区では難しいが、他の地区で生かせるのではないかと私は思った。

#### ○委員

地域学校協働本部というワードが頻繁に出ており、非常に興味を持った。

連協を均等に接していけばトラブルが少なくて済むが、私はトラブルがあってもいいと思う。民協もある。そういうたくさんの方から事業を行う際いろいろな意見を聞いて意見が出る中で、やってみたいという事にもなる。何事もやらないと分からないものが多く、やってみる中で試行錯誤や改善点が見つかったりするもので、そういう刺激も大事だと思った。

#### ◆武庫地域振興センター所長

武庫北小学校の避難訓練は、学校の先生が土日に来ることが難しく、災害時に避難開設

が難しいという状況で、コーディネーターから「私たちがやってみよう」という声があった。行政から指示するよりも、地域から声が出たときにすぐ乗っかっていくことが大事だと思った。

#### ○委員

昨年の地震の際、地域の人に学校に避難するよう促したところすぐに行動してくれた。地域の人を見守りしている人の顔を知っており、安全な場所等がわかっている。日々の取組の中での成果だと思うので、普段から地域に顔を出していることは大事だと思う。

#### ○委員

社協と地域課でやっていることが似ていることがあるのでイメージしやすい。社協がやっていること地域課がやっていることを現場レベルでやりとりを増やしたほうが両者効率的な動きができると思う。そのほうが地域の負担も少なくなる。単協の立場から発言すると、町会自体が動きにくいところもあるが、町会だから動ける部分や周りの声に答えることもできるので、社協が得意な事と社協以外の部分にアプローチした際に得意になったところをうまく組み合わせればいいと思った。頼れる人を見つけるのが一番だと思うので、希望としては、失敗したところや行き詰っているところを資料に記載すればつながり先等アドバイスしやすい。

#### ○委員

先行ということで少し置きにいつている感がある。対象が高齢者に偏っているため、小学生以下のお子様を持つご家庭へのアプローチがどのようなものか疑問に思った。先ほどの小学校の避難訓練の話だと、小学生のお子様を持つご家庭は小学校に入りやすいが、小学校以下のお子様を持つご家庭は小学校に入りにくい。夜間の避難訓練になるとなおさらである。そのため、避難訓練の参加者について知りたいと思った。新しく引っ越してくる方や、昼間は仕事をしており夜のみ自宅にいる人へのアプローチが今後課題であると思った。

#### ◆武庫地域振興センター所長

避難訓練に関しては来年1月の実施を予定しており、土曜日か平日の午前中の実施を予定している。確かに小学生以下のお子様を持つ家庭が来にくい状況はある。「こんにちは赤ちゃん事業」をプラザで実施しているが、プラザは駅から遠く、お子様を持つ家庭は駅前に住んでいる事が多いことから、孤独に陥っている家庭がいるという話は聞いている。公共施設及び民間施設を利用した「お出かけ事業」を駅前に住む小さいお子様を持つご家庭を対象に実施している。

#### ○委員

社協と民協とのつながりの中にいない人へのアプローチが必要。私の住む地域は連協の動きは活発であるが、単組はそうでもなく、連協の情報等が単組に浸透していない。

#### ○委員

評価の方法が気になる。旧公民館及び旧地区会館での学びについて、豊かさを広げる部分と先ほど質問した際のセーフティーネットのような貧しくならないようにするという2つの方向性があるように思う。豊かさを広げる講座等だけではなく、貧しくならないようにする講座の実施を両立することが大事だと思った。また、指針の中で取組等を記載して

いるが、評価を行う中で、地域課主催の事業だけでなく、市民が自主的に行うものも結果的には成果になってくるので、うまく評価する方法があればいいと思った。

### ○委員

私自身地域活動に参加しているのでその視点で発言する。

人材を掘り起こすという言葉自体少し疑問に思う。人材は実際いるが連協等の活動に入りにくい状況にある。それは連協の活動や運営方法を変えることで状況は変わるのでそのための機会づくりがあってもいい。市から何かをやるように押し付けるのではなく、連協の役員の気づきを促すような講座の実施が必要。三田のまちづくり協議会の立ち上げに携わった際、3年連続年4回の講座を集中的に実施し、4回中2回は他市において活動的な役員を呼び、様々な情報提供していただきワークショップを実施した。連続して2つの地域を対象に呼んだことで、2つの地域に共通したものが見えてきたり、ワークショップを行ったことで聞いている方の中にも異なる感想が見え、気づきが生まれ三田のまちづくりが進んだため効果的な講座であった。一方、市から一方的に押し付けて実施し、担当者が実施する理由を説明できない市もあった。尼崎市の地域担当者も本来の地域自治のあり方を理解し自分のものにしておく必要があり、導く方向が分かっていないといけないので、そうでない場合は早急に対応してほしい。明石のコミュニティ創造協会が支援者の地域への寄り添い方についてケースごとに記載した支援者のためのケースブックを販売している。宝塚市は、協働まちづくり促進委員会がまちづくり協議会のあるべき姿をチェックリストにしている。そういった先行事例を参考にしてほしい。地域によって特徴等は違うが、あるべき姿が見えることにより戦略を練ることができる。

### ○委員

武庫の地域の特性がある中で、新しい仕掛けに取組みたいという意欲が見られ職員の苦勞を感じる事ができた。「まごころ薬局」のような民間との連携等、幅広い連携先を見つける姿勢が見られ面白いと思った。社会活動にはセーフティネットの側面があり、自由に学べない、幸せに生きていけない、幸せに生きていたい、と考えている方々が地域の中で暮らせるようにする中で、キーパーソンを特定するのは難しい。地域の顔役だけではなく、新しい「生涯、学習！」というキーワードを用いて地域づくりをする際は、テーマ型のコミュニティがどれぐらいあるかというの1つのポイントであり、そういうもの生み出していけるような講座とか講座の中で新しいテーマをもった集団がどれくらいあるかを調べるのもいいと思う。また、地域担当職員が過労にならないか心配。働き方や自分自身の変化をどう思っているのかを聞ける研修会もしくは主事会もあればいい。こうあればいい！という指標をつくと窮屈になりがちなので、出会った人は誰か、キーパーソン以外の方とつながるにはどうすればいいか考えるワークショップ等があると更にやりがいが増すのではと思った。

### ○委員

私は園田地区なのだが、園田にはまつりが多く、勝手にまつりが発生する何かがあるように感じる。社協・連協に入りたくない層の中でコミュニティ化していく例が多くみられるが、入りたくない層たちを入れるのではなく、その層を捕まえてどうコミュニティをつくっていくかを考えることも必要。「まち活」という講座を行っているが、当時の公民館

の館長が社協、NPO、百合学園のボランティアの方など色々な年代の人を集め、まちな理想像を考え1か月間フィールドワークを行い後日発表するという2回に分けた講座を行ったが、こうした時、初めて役所に電話した方や初めて講座に参加した方等初めての人が増え、まちで活動するプレーヤーが増えたので、活動するプレーヤーを増やす取り組みも必要。地域の中では課題を解決するというと距離を置きたくなる層もいる、地域の人特に若者は「おもしろそう」と思った取組しか参加しない傾向があるため、市民福祉の集いがミーツ・ザ・福祉になった時でもそうだったがスタッフ・プレーヤーになりたい人が多かったように、「一緒にスタッフやりませんか？」等そのためのきっかけづくりを提供することが必要。

### ○委員

地区ごとに比較しないと分からない部分が多く、1つだけを見ながらというのは難しいと思った。連携先に意外さがなく、連協という考え方を変えていかないといけないとも思う。次回以降各地域課が発表する中で、地域課毎に共通した苦労があると思うが、それを改革することも必要。ある市では「自分たちの地域が10年後どの地域にもまねできない地域にしてやろう」という職員がいて、例えば会議は座って行わず歩きながら行う等その職員のバカバカしさがいいと思った。そういった職員側のテクニックや知恵等を共有できればいい

## (2) 講座等の実施状況について

武庫地域課より講座等の実施状況について説明し、質疑応答を行い、今後の方向性について委員それぞれから意見を受けた。

### ○委員

私は地域総合センターの運営に関わっているが、あちらは人権の講座等を行い拠点となっている。来年度からでもいいのでもう少しくまぐ連携や役割分担を行えばいいと思った。

### ◆武庫地域課長

ハートフルシネマについては、映画を観た後に人権啓発協会や社会教育課から講師を呼び講演を行うという形で連携はとっているが、今後とも連携をしていければと思っている。市民運動武庫地区推進協議会でも人権の講座を行っており、来年度以降連携して力を入れていきたい。

### ○委員

生涯学習という全体像の中で生涯学習プラザがどの部分を受け持つのか等1つの体系化をしたほうがいい。

### ○委員

学んだ人たちが主体的になり働きかけて変えていくことに魅力を感じる人たちが尼崎市内もしくは他市にいるのかもしれないが、市民大学の講座に参加する人たちは「暇だから」等受け身の人たちが多くと解釈しているかもしれないが、それは20年前の解釈であり、そこに行けば誰かと出会える等の目的がある人が多い。また、社会教育の場合学んだことがどこにつながるのかというのが必要。基礎的な知識を学んだあと、実践としてボラ

ンティアに参加するなど、学びの段階が異なるというイメージをもっていると、紹介がやりやすくなる。そういった情報をもつ集団をつくる、ネットワークをつくる意識があれば、まちづくりと生涯学習が一体になるビジョンが見えやすくなる。

#### ○委員

何割の人に講座を知ってもらいたい等の数値目標があるなど、ゴールがあればいいと思った。目標をゴールがふわっとしているので、10年後こういう目標があるので5年後はこうあるなど、目標があれば委員も評価がしやすい気がした。ゴールがあれば、例えば市民参加・交流・連携推進事業の中で「YOUTUBEの動画講座」を行い、取材先を人権・平和教育推進事業の分野に行く等ができれば講座等で連携できる。そういったアイデアを公民館だけだと硬くなるので市民から集めれば、一緒に考えている感じにもできる。

#### ○委員

ゴールを誰がどうつくるかは慎重に考えないといけない。色々なアイデアを持っている人を対象にしたワークショップで意見を集めるのも必要。

以 上

会議録署名委員

尼崎市生涯学習審議会委員

氏名 \_\_\_\_\_ 印

氏名 \_\_\_\_\_ 印